

イアン・ブレマー氏の思い出

塚田 實

1月3日ユーラシア・グループ（EG）は2023年「世界の十大リスク」を発表した。EGは世界最大の政治リスク専門コンサルティング会社で発表は新春の恒例行事となっており、今年も新聞・テレビ各社が報道した。リスクのトップは「ならず者国家ロシア」で2番は「絶対的権力者 習近平」と続く。またEGのCEOイアン・ブレマー氏は17日のダボス会議では「グローバル化、進展か後退か」セッションでパネリストの一人として積極的に発言していた。

イアンはスタンフォード大学で政治学博士号を取得後、フーバー研究所のナショナルフェローに最年少で就任、様々な研究所の教職を経て、1998年29歳の時にEGを設立した。私がH社から子会社のシンクタンク（S社）に異動したとき、S社は既に日本では数少ないEGのクライアントとなっていた。今では日本のクライアントの数は40社を超えている。イアンは来日したときS社によく訪問してくれたし、会食もして個人的に親しくなった。私がニューヨークを訪問したときはミッドマンハッタンの事務所を訪れて世界情勢について議論し、場所を移してワインを飲みながら語り合った。

イアンは2011年のダボス会議で「Gゼロ」の考え方を発表、翌年には『「Gゼロ」後の世界：主導国なき時代の勝者はだれか』を発刊、アメリカがスーパーパワーの地位を降り、G7、G20も機能不全に陥る新しい世界の到来を予測した。

2012年6月社内誌に掲載する「対論」のためニューヨークのEG事務所を訪れた。当時43歳のイアンは面談の2日前に結婚したばかりという。面談は2時間に及び世界情勢の見通し、H社へのアドバイスなどを聞いた。言葉を慎重に選びながら、優しく分かり易く話すのがイアンの特徴だ。

EGは十大リスクの他に、台湾危機など4つを「リスクもどき」として述べ、またこれらリスクの日本への影響も分析している。地政学的に難しいところに位置している日本が、リスクに満ちた世界情勢への対処方法を見誤らないことを望みたい。